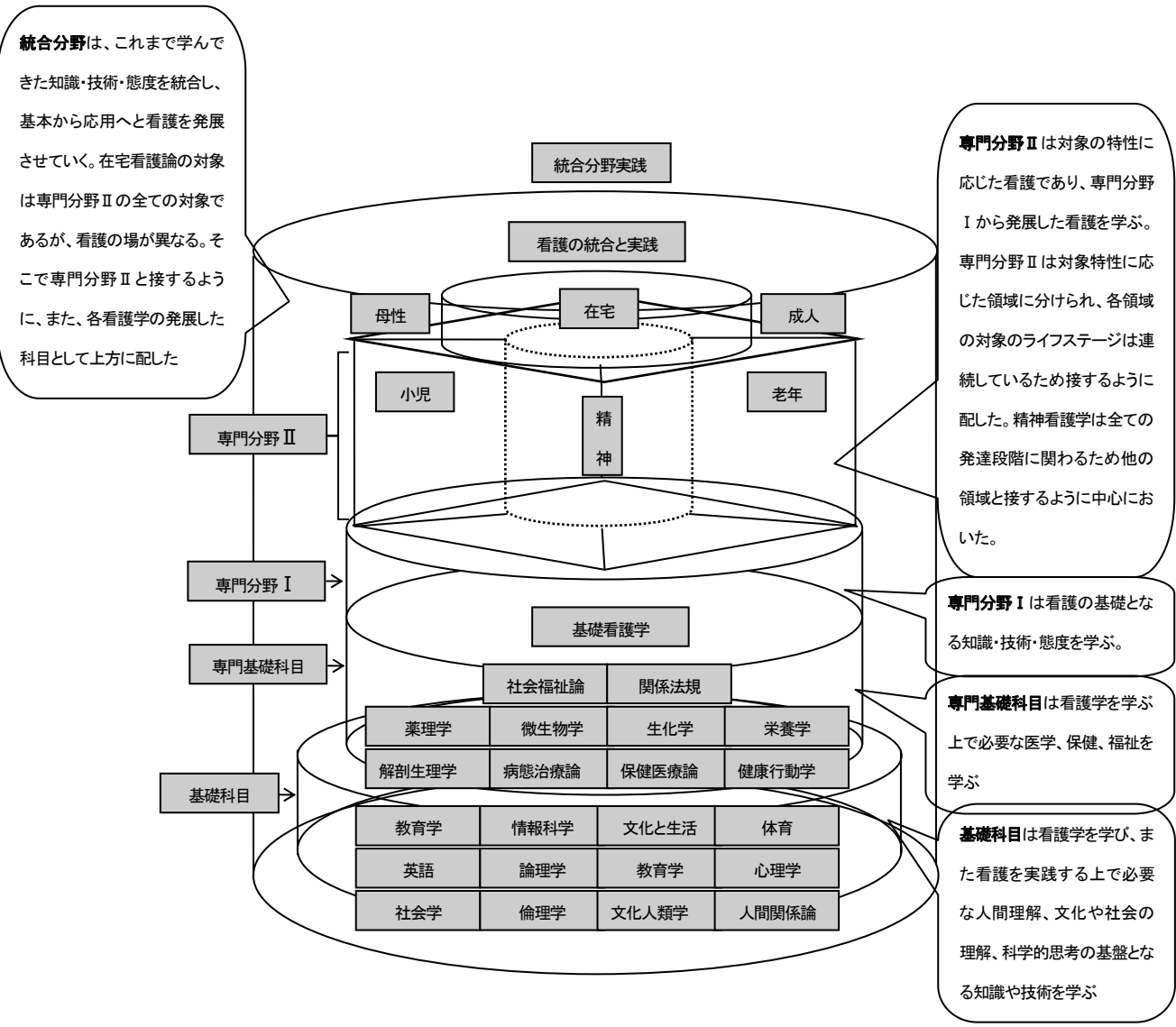


I. 構造図



II. 教育内容

基礎分野

目的: 科学的思考にもとづいた問題解決能力を身につけ、豊かな感性と幅広い視野で人間を総合的に理解する能力を養う。

	科目	単位数	時間数	科目目標	教科内容
科学的思考の基礎	論理学	1	30	○物事を論理的・客観的に捉える思考方法や表現方法について学習する。	論理学とは、自己表現力について、日本語の表現、文章の技術、人間の生について、論理的思考、ディベートの実際
	教育学	1	30	○人間形成における教育の位置、諸条件、種類および方法を学習し、自己学習能力を身につける。	看護学生と教育学、教育とは、教育の必要性と可能性、人間形成と発達課題、教育の目的と理想の人間像、公教育と教育基本法、学校とは、教育改革の行方と課題、学習指導の意味と方法、からだと心の教育、高度情報社会の教育、ライフコースと教育
	心理学	1	30	○看護の対象である人間の心理を理解するための知識について学習する。また心理学を学習することで自己理解を深めるようにする。	心理学の歴史と概観、心理学の研究手法、自己理解と他者理解、心理テスト、適応の心理、発達の心理、カウンセリング、医療と心理学、心理療法、人生各期の発達上の諸問題
	社会学	1	30	○社会と集団生活および社会構造を理解し、医療という人間の営みや医療経済について学習する。	社会と集団、社会構造、現代社会と都市化、国際社会と関わり、医療・看護の場、社会保険、労働の意味、現代社会の諸問題、発展途上での医療奉仕
	情報科学	1	30	○コンピューターの構造と基本的操作を理解し、看護情報の処理や判断に役立て情報化へ対応し得る能力を養う。またその情報処理の知識を看護研究に活用する。	情報科学とは、コンピューターネットワーク、インターネットによる通信と検索、パソコン操作、看護と情報処理、統計処理、情報倫理、医療情報に関する諸問題、ホームページ作成、*演習30時間
人間と生活、社会の理解	倫理学	1	30	○「人間はどう生まれ、生き、死ぬべきか」を考え、生命の尊厳、人間の尊重、人間の基本的権利について理解する。	医療場面における倫理学、生命倫理学の原則、健康とは、生殖における問題、人格の問題、インフォームドコンセント、臓器移植の問題、安楽死・尊厳死の問題、終末期医療・緩和医療、医療の質と評価 *研修(大阪人権博物館見学)2時間
	文化人類学	1	30	○人間の文化的側面のみならず性、時間、技術、先端医療などを学習することで多様な文化的価値観を持つ対象を理解する。	文化人類学とは、異文化理解、フィールドワーク、生殖・婚姻・家族・ネットワーク、通過儀礼と境界理論、環境技術・モノ、信仰と世界観、身体・病気・治療、人間と死
	人間関係論	1	30	○人間関係の基礎知識やスキル、カウンセリングを学び看護にふさわしい人間関係について理解する。	人間存在と人間関係、社会的相互作用と社会的役割、コミュニケーション、カウンセリング理論と技法、保健医療チームの人間関係、闘病生活を支える人間関係、終末期を支える人間関係、家族の人間関係、ソーシャルサポートをめぐる人間関係、ノーマライゼーションをはぐくむ人間関係
	文化と生活	1	15	○人間理解能力を高めるために身体で表現されている人間の感情について学び感性を養う。また日本人の伝統的な生活観や生活様式を知る機会とする。	能楽とは、能の歴史、能の音楽性、能面と装束、能の実習4時間、能楽鑑賞2時間
	異文化コミュニケーション	1	30	○自己を知らずして他者を理解できないのと同様、自文化に対する十分な理解なしには異文化を理解することはできない。異文化理解とは自己探求から始まるということ学ぶ。他者の意見を尊重し、異なる視点から物事を考える能力を養う。	オリエンテーション、「文化」とは何か、文化の特徴、「コミュニケーション」とは何か、日本人のコミュニケーションの特徴、コンテキストとは何か、カルチャーショックと異文化適応、物の見方捉え方、ステレオタイプと偏見、価値観、家族とは？、言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション、コミュニケーションスタイル、看護のグローバル化
	英語 I	1	15	○基礎英語としてリスニングの基本的なスキルや表現能力を養い、専門職としての英会話能力を高める。	Sound and Speech, Greeting, Activities, Directions, Review, Overall review

	科目	単位数	時間数	科目目標	教科内容
人間と生活、社会の理解	英語Ⅱ	1	15	○リスニング能力や表現能力を向上させることと、コミュニケーションによる国際交流ができる能力を養う。また臨床現場で使用する英語を習得する。	医療にかかわる人々、薬、身体、病気、病状、看護場面で必要な会話
	体育	1	30	○スポーツを通して健全な心身を養い、チームワークや敏速性などを体得するとともにスポーツが健康に及ぼす影響について学習する。	バレーボール、レクリエーション、指導実習、体験学習

専門基礎分野

目的:人体の構造や疾患の成り立ちを理解し、健康・疾病に関する観察力や判断力の基礎的能力を養う。

保健・医療・福祉制度を総合的に理解し、それらを調整していく基礎能力を養う。

	科目	単位数	時間数	科目目標	教科内容
人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ (人体の構造と機能)	1	30	○人体を構成するさまざまなレベルを理解し、ヒトが生命を維持するのに必要な機能や恒常性について学習する。	人体の構造と機能を学ぶ為の基礎、体の支持と運動・骨格・筋系、循環器系、呼吸器・消化器系、泌尿器系・生殖器系・内分泌系、神経・感覚器系
	解剖生理学Ⅱ (呼吸・循環・体温)	1	30	○ヒトが生命活動を営むために行うガス交換、栄養や酸素の供給、老廃物の除去、熱の発生と放散などのメカニズムについて学習する。	心臓、血管の構造と肺循環、全身の動脈と静脈、胎児の血液循環、リンパ系、血圧・脈拍、呼吸器の構造、肺の呼吸機能、体温調節
	解剖生理学Ⅲ (消化・吸収)	1	30	○食物の消化・吸収および代謝、老廃物の排泄を行う器官の構造や機能を学習する。	口・咽頭・食道、胃の構造・機能、肝臓・胆嚢・脾臓、小腸・大腸の構造・運動・消化、動脈と静脈、腹膜、栄養の消化と吸収
	解剖生理学Ⅳ (人体の恒常性)	1	30	○最小単位である細胞および内分泌液、腎泌尿器などの構造や機能恒常性について学習する。	細胞の機能、血液・間質液・リンパ、生体の防御機構、泌尿器系、内分泌系・ホルモン、体液と電解質、腎のはたらきと尿、生殖器系
	解剖生理学Ⅴ (脳神経・感覚器)	1	30	○ヒトは生命を維持するために生体内外の環境の変化を感受している。その情報伝達の役割を担っている感覚器系と神経系の構造と機能について学習する。	神経系の区分、中枢神経系、末梢神経系、神経系の疾患、感覚の種類、味覚・臭覚、聴覚と平衡覚、視覚、感覚器の疾患
	生化学	1	30	○生体を作っている化合物の化学的な構造やその化合物のもつ物理化学的な性質を理解する。また生体はその化合物を取り入れ、作り出して利用する仕組みについて学習する。	糖質、脂質、タンパク質、核酸、水と無機質、ホルモン、酵素、物質代謝、遺伝情報と発現、先天性代謝異常
	栄養学	1	30	○食と健康とのかかわりの中で栄養素の種類や体内での役割と代謝、1日の摂取量について学習する。また食生活上の問題を考えることで、生活習慣病との関係を理解する。	栄養学概論、各栄養素の栄養的役割、エネルギー代謝、消化、吸収、臨床栄養、栄養所要量とエネルギー所要量、ライフステージと栄養、食品構成と各種食品の特徴、わが国の栄養の現状と栄養改善

	科目	単位数	時間数	科目目標	教科内容
疾病の成り立ちと回復の促進	薬理学	1	30	○人体における薬物の有効性と安全性、薬物動態、有効性の評価、臨床的応用面を理解し人体への影響や投薬の管理について学習する。	薬理学総論、抗感染症薬・消毒薬、末梢神経系に作用する薬物、中枢神経系に作用する薬物、心臓血管系に作用する薬物、呼吸・消化器・生殖器系に作用する薬物、免疫治療薬、抗癌薬、外用薬その他
	微生物学	1	30	○微生物の基本的性状、病原性とそれによって生じる病態として感染症を理解する。さらに感染症の発生動向、行政対応、治療および予防介入について学習する。	微生物学のなりたち、感染症の歴史、免疫学、細菌学総論、細菌学各論、ウイルス学総論、ウイルス学各論、原虫学、薬物耐性微生物感染症、感染症の社会医学、滅菌・消毒、治療
	病態治療論総論	1	15	○病気の原因や経過、とくに病気による形態的・機能的変化の正確な知識を学習する。またそのことからの確かな看護援助について学習する。	病理学とは、先天異常、代謝障害、循環障害、炎症と免疫・アレルギー、感染症、腫瘍、老化
	病態治療論Ⅰ (呼吸器系) (血液・リンパ系)	1	30	○呼吸・血液リンパ系の解剖生理学の知識をもとに疾患を理解し有効な治療法とその看護について学習する。	呼吸器・血液・リンパ系の解剖生理、各主要症状と病態生理、検査、各主要疾患、治療・処置
	病態治療論Ⅱ (循環器系) (内分泌・代謝系)	1	30	○循環器・内分泌系の解剖生理学の知識をもとに疾患を理解し有効な治療法とその看護について学習する。	循環器・内分泌系の解剖生理、各主要症状と病態生理、検査、各主要疾患、治療・処置
	病態治療論Ⅲ (脳神経系) (運動器系)	1	30	○脳神経・運動系の解剖生理学的知識をもとに主要症状と疾患を理解し、有効な治療法とその看護について学習する。	脳神経・運動系の解剖生理、各主要症状と病態生理、検査、各主要疾患、治療・処置
	病態治療論Ⅳ (消化器系) (腎・泌尿器系)	1	30	○消化器・腎泌尿器系の解剖生理学の知識をもとに疾患を理解し有効な治療法とその看護について学習する。	消化器・腎泌尿器系の解剖生理、各主要症状と病態生理、検査、各主要疾患、治療・処置
	病態治療論Ⅴ (女性生殖器) (手術療法) (耳鼻咽喉科) (眼科)	1	30	○感覚器・女性生殖器系の解剖生理学的知識をもとに主要症状と疾患を理解し、有効な治療法とその看護について学習する。	女性生殖器系の解剖生理、各主要症状と病態生理、検査、各主要疾患、治療・処置

	科目	単位数	時間数	科目目標	教科内容
健康障害の支援と社会保障制度	関係法規Ⅰ	1	15	○保健・医療・福祉関係の法律の概要を学習し、国民の健康を守る立場である看護職に必要な法規について理解する。	法の概念、社会保険法、医事法規、薬事法規、医療過誤、保健衛生法規、環境衛生法規、福祉関係法規
	関係法規Ⅱ	1	15	○保健・医療関係法規の概要を学び、医療制度における看護の位置づけを理解する。	法規の概念（事例検討） 保健師助産師看護師法、免許について、医療過誤、（医事・薬事法規との関係）
	社会福祉論	1	30	○社会福祉と社会保障制度を学び、その歴史的過程と現状および行政について理解する。また人々の生活と医療・看護の福祉的かかわりについても理解する。	社会福祉の基本的性格、社会福祉の定義、生活問題の展開と社会福祉の基本的動向、社会保障制度、各保険制度、老人福祉、障害福祉、母子福祉、児童福祉、社会福祉と医療・看護の連携、社会福祉の形成と現代
	保健医療論Ⅰ	1	15	○現代の保健・医療・福祉の現状とその問題を理解し、看護職として人々の健康の維持・増進に貢献できる能力を養う。	医学概論とは、看護の役割とは、医療システムの現状と課題、患者の権利・自己決定、障害者の現状と課題、高齢者施策の現状と課題、医療と倫理
	保健医療論Ⅱ	1	15	○健康増進・疾病予防のための疫学的知識を学習する。また疾病構造の変化や高齢者の在宅医療の問題など、守備範囲が拡大しつつある公衆衛生活動についても理解する。	公衆衛生とは、公衆衛生の用語、公衆衛生のしくみ、公衆衛生活動、公衆衛生の課題
	健康行動学	1	30	○健康の保持増進を目的としたあらゆる活動である保健行動について学習し、より効果的な保健医療活動について理解する。	医療者のストレスと燃えつき症候群

専門分野 I

目的: 基礎分野 II および統合分野の基礎となる基礎的理論や基礎的看護技術を学び倫理的な判断をするための基礎的能力を養う。

基礎看護学

《目的》人間のライフサイクルにおける健康の意義、保健・医療・福祉における看護の機能と役割を理解し、看護実践の基礎となる知識・技術・態度を習得する。

	科目	単位数	時間数	科目目標	内容
基礎看護学	看護学概論 I	1	30	<ul style="list-style-type: none"> ○看護に必要な概念や理念、それらの変遷を学び看護の本質を理解する。 ○看護の対象について看護学的視点を学び、統合的に理解する。 ○看護の機能と役割を学び、看護活動の概要を理解する。 	看護とは、看護の歴史、看護理論の変遷、健康の定義・諸概念、看護の対象、看護の目的、看護活動がもつ機能・方法、看護の機能と活動の場における特徴
	看護学概論 II	1	30	<ul style="list-style-type: none"> ○看護実践に必要な倫理について学び、生命の尊厳と専門職としての責任を理解する。 ○安全について学び、安全を守るための方策について理解する。 	看護における倫理と価値、看護職に求められる倫理、道徳的ジレンマと倫理的課題、医療安全と医療の質の保障、安全を守る技術
	基礎看護学援助論基本技術 I	1	30	<ul style="list-style-type: none"> ○看護技術の特徴や科学的根拠の必要性を理解する。 ○看護におけるコミュニケーションの意義を理解し、コミュニケーションについての基礎知識と技術を習得する。 ○看護における記録と観察の必要性を理解する。 	看護技術とは、コミュニケーションとは、効果的コミュニケーションの技術、観察の意義、看護における記録と報告
	基礎看護学援助論基本技術 II	1	30	<ul style="list-style-type: none"> ○生体におけるバイタルサインの意義を理解し、正確に観察・測定できる基礎的知識、技術を習得する。 ○全身状態を系統的に把握するためのフィジカルアセスメントの基礎的知識と方法を習得する。 	バイタルサインの重要性と測定の意義、呼吸の観察と測定、体温の観察と測定、脈拍の観察と測定、血圧の観察と測定、フィジカルアセスメントの意義、フィジカルアセスメントの実際
	基礎看護学援助論基本技術 III	1	30	<ul style="list-style-type: none"> ○環境が健康におよぼす影響を理解し、適切な環境を整えるために必要な援助方法を習得する。 ○対象の安楽を保つための意義を理解し、適切に援助する方法を習得する。 ○人間の活動・運動の意義を理解し、健康生活を送るために必要な援助の方法を理解する。 ○人における休息・睡眠の意義とメカニズムを理解し、睡眠・休息の必要性に応じた援助方法を習得する。 	環境とは、環境整備の意義と実際、ベットメイキングの実際、臥床患者の病床環境調整、リネンの取扱いとリネン交換の技術、安楽の意義、安楽を確保する援助技術、活動と休息の意義、姿勢と体位、体位変換の技術、移動と移乗の技術、休息と睡眠の援助
	基礎看護学援助論基本技術 IV	1	30	<ul style="list-style-type: none"> ○看護過程の意義とプロセスを理解し、事例を用い看護過程の展開ができる。 	看護過程とは、看護過程の変遷、看護過程の各段階および相互関係、看護過程を展開するために必要な能力、アセスメントの構成要素とプロセス、情報の解釈、分布の方法、看護診断と共同問題、優先順位の決定、計画立案、看護介入評価

	科目	単位数	時間数	科目目標	内容
基礎看護学	基礎看護学 援助論 援助技術Ⅰ	1	30	<ul style="list-style-type: none"> ○栄養と食事の意義を理解し基本的援助技術を習得する。 ○生体における排泄の重要性が理解でき、基本的援助技術が習得できる。 	<p>食事・栄養の意義、栄養状態のアセスメント、食事・栄養の援助の実際、経口栄養、経管栄養、高カロリー輸液、IVH、排泄の意義、排尿・排便のメカニズム、排尿・排便のニーズのアセスメント、排泄援助の実際</p>
	基礎看護学 援助論 援助技術Ⅱ	1	30	<ul style="list-style-type: none"> ○看護における安全安楽の意義や感染予防の技術を習得する。 ○看護における衣生活・清潔の援助技術について習得する。 	<p>感染予防の意義、抵抗力の増強、消毒・滅菌、清潔・汚染、感染経路と無菌操作、手指消毒と手洗い、ガウンテクニック、清潔の基本知識、衣生活、清潔の種類と方法、全身清拭、洗濯・結髪、足浴、寝衣交換、陰部洗浄</p>
	基礎看護学 援助論 援助技術Ⅲ	1	30	<ul style="list-style-type: none"> ○検査・治療にともなう患者の心理を理解し、検査・治療を安全かつ正確に行うために必要な援助技術を習得する。 ○与薬の意義と看護者の役割を理解し、与薬の援助ができる。 	<p>検査とは、検査を受ける患者の理解、看護者の役割、穿刺、包帯法、薬物療法と患者の看護、各与薬の目的・手順、輸血療法と患者の看護、注射法の実践</p>
	基礎看護学 臨床 看護総論	1	30	<ul style="list-style-type: none"> ○健康障害を持つ対象を理解する。 ○状態に応じた看護について学ぶ。 ○事例に対して看護技術を適応する方法の基礎を学ぶ。 	<p>臨床の看護技術とは、学内技術演習と臨床における技術適用の違い、対象の健康障害、臨床における技術適用の留意点、コミュニケーション、環境調整、倫理的配慮、症状のある患者の看護、事例をもとに技術の適用</p>
	基礎看護学 実習Ⅰ	1	45	<ul style="list-style-type: none"> ○対象をとりまく生活環境を理解できる。 ○対象の療養生活を知ることができる。 ○看護実践の概要が理解できる。 ○対象とよい人間関係を成立するための効果的なコミュニケーションについて考えることができる。 ○機能的健康パターンの枠組みを用いて、情報収集を体験できる。 ○対象に適した日常生活援助を体験できる。 ○対象にふさわしい接遇態度を身に付けることができる。 ○医療・保健・福祉チームの一員としてふさわしい態度を身に付けることができる。 ○自己の課題を見出し、達成に向けて努力することができる。 	<p>病院の機能・構造、病棟の機能・構造、病室の機能・構造についての理解（オリエンテーション、病院、病棟、病室見学）病室環境の観察・測定、病室の空間・構造、ベッドの構造、温度、湿度、音、光、臭い、プライバシー確保対策、危険防止対策、情報の整理、対象の発達段階、健康障害の理解、対象に必要な日常生活援助の見学・実施</p>
	基礎看護学 実習Ⅱ	2	90	<ul style="list-style-type: none"> ○対象の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。 ○機能的健康パターンの枠組みから対象の全体像を把握し、問題解決思考に基づいた看護過程の展開が体験できる。 ○対象の診療に伴う看護の役割と援助の必要性が理解できる。 ○対象にふさわしい接遇態度を身に付けることができる。 ○医療・保健・福祉チームの一員としてふさわしい態度を身に付けることができる。 ○自己の課題を見出し、達成に向けて努力することができる。 	<p>対象の発達段階、社会背景、健康障害の理解、対象とのコミュニケーション、情報収集・整理、情報の解釈・分析、関連図、問題の明確化、看護診断、優先度の決定、目標設定、計画立案、対象の健康状態に適した援助方法の選択・実施、診療を受ける対象に必要な準備・環境調整、検査・治療を受ける対象に必要な援助の見学</p>

専門分野Ⅱ

目的:各領域の対象特性とその目的を理解し、対象に応じた看護の方法を学び、看護が実践できる基礎的能力を養う。

成人看護学

《目的》成人期にある対象の特徴と健康の保持・増進の重要性を理解し、健康障害をもつ対象とその家族への看護を実践する能力を養う。

	科目	単位数	時間数	科目目標	内容
成人看護学	成人看護学概論	1	30	<ul style="list-style-type: none"> ○成人各期の3側面の特性について統合的に理解できる。 ○あらゆる健康レベルにある成人期の対象とその家族への看護の役割を理解する。 	成人と生活・生活と健康、看護アプローチの基本、健康生活を育む看護、生活ストレスと看護、健康生活の急激な破綻と看護、慢性的な健康状態の揺らぎと看護・技術、障害をもちながらの生活とリハビリテーション・技術、終末期医療の現状と看護・技術、先端医療と看護、通院調整の看護・技術
	成人看護学援助論Ⅰ	1	30	<ul style="list-style-type: none"> ○急性期の特性を知り看護を理解する。 ○手術を受ける成人の身体侵襲を知り、周手術期における援助方法を理解する。 ○生命危機状態にある成人の心身の変化を知り、援助方法を理解する。 	急性期の概念、手術と麻酔、対象理解、術前・術中・術後の看護、術後の事例から学ぶ病態理解、アセスメント、問題・看護の視点・技術、生命の危機の概念、対象の3側面理解と援助、生命危機状態にある事例から病院理解、アセスメント、問題・看護の視点・技術
	成人看護学援助論Ⅱ	1	30	<ul style="list-style-type: none"> ○回復期の特性を知り回復期の看護を理解する。 ○生活行動が自力で行えない成人の心身の変化を知り援助方法を理解する。 ○感染により障害を受けた成人の心身の変化を知り援助方法を理解する。 	回復期の概念、回復期の特徴看護ポイント、障害とは、対象の理解と3側面の特徴と援助、回復過程にある対象の事例から病態理解、アセスメント、問題、看護の視点・技術
	成人看護学援助論Ⅲ	1	30	<ul style="list-style-type: none"> ○慢性期の特性を知り、慢性期の看護を理解する。 ○疾病コントロールの必要な成人の健康状態を知り援助方法を理解する。 	慢性期の概念、慢性期の特徴と看護、疾病コントロールの必要な疾患、痛みの軌跡、対象の3側面の理解、セルフケア、健康教育、疾病コントロールを必要とする事例から病態理解、アセスメント、問題、看護の視点・技術
	成人看護学援助論Ⅳ	1	15	<ul style="list-style-type: none"> ○終末期の特性を知り急性期の看護を理解する。 ○治癒困難な状態にある成人の心身の変化を知り援助方法を理解する。 	終末期の概念、終末期の3側面の特徴と看護、治癒困難とは、対象の3側面の特徴、疾病コントロール、苦痛をともなう病状の看護、終末期の事例から病態理解、アセスメント、問題、看護の視点・技術
	成人看護学援助論Ⅴ	1	30	<ul style="list-style-type: none"> ○事例を展開する事を通して、成人看護に必要な知識と技術を統合する。 	手術を受けた成人の術前から術後へ事例から情報分類と整理・分析、問題抽出、看護診断、目標設定、計画立案、術後の計画の実施、評価修正

	科目	単位	時間	科目目標	内容
成人看護学	成人看護学 実習Ⅰ	2	90	<ul style="list-style-type: none"> ○周手術期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から統合して理解できる。 ○周手術期にある対象の変化に応じた看護が理解できる。 ○合併症の予防と回復へ向けて対象に応じた援助ができる。 ○対象にふさわしい接遇態度を身に付けることができる。 ○医療・保健・福祉チームの一員としてふさわしい態度を身に付けることができる。 ○自己の課題を見出し、達成に向けて努力することができる。 	対象理解、病態生理のアセスメント、身体機能のアセスメント、術前検査、プレメディケーション、麻酔・手術による身体侵襲、術後合併症、合併症予防 (術前訓練、感染予防、深呼吸・排痰援助、早期離床) 輸液管理、ドレーン管理、術後観察、苦痛緩和、生理的ニードへの援助、術前・術後の不安への援助、継続看護、医療・保健・福祉の連携
	成人看護学 実習Ⅱ	2	90	<ul style="list-style-type: none"> ○慢性期で寛解期にある対象の身体的、精神的、社会的側面から統合して理解できる。 ○対象の疾病コントロールの状態を理解し、対象の個別に応じた援助ができる。 ○対象が障がいを受容し、闘病意欲がもてるような援助ができる。 ○対象の自立に向けた家族への基礎的な援助ができる。 ○継続看護の必要性和援助の実際を理解できる。 ○対象にふさわしい接遇態度を身に付けることができる。 ○医療、保健、福祉チームの一員としてふさわしい態度を身に付けることができる。 ○自己の課題を見出し、達成に向けて努力することができる。 	対象の健康障害の部位と程度、発達障害と社会背景の把握、健康障害への援助、生活習慣変更への援助、障害受容への働きかけ、食生活の変更・薬物の管理、運動習慣の獲得、休息習慣の確保、医療処置の手段の獲得等個人指導、集団指導、セルフケア充足への援助、対象の心理的苦痛の緩和、検査治療を受ける対象の援助、長期療養、行動変容のための精神的支援、継続看護、医療・保健・福祉の連携
	成人看護学 実習Ⅲ	2	90	<ul style="list-style-type: none"> ○慢性期で増悪期にある対象の身体的、精神的、社会的側面から統合して理解できる。 ○対象の疾患、症状の病態生理を理解し、対象の個別に応じた援助ができる。 ○対象の症状悪化にともなう家族の心理を理解し基礎的な援助ができる。 ○継続看護の必要性和援助の実際を理解できる。 ○対象にふさわしい接遇態度を身に付けることができる。 ○医療・保健・福祉チームの一員としてふさわしい態度を身に付けることができる。 ○自己の課題を見出し、達成に向けて努力することができる。 	対象の健康障害の部位と程度、健康障害と社会背景の把握、対象に行われている検査・治療の理解及び援助、対象の生活習慣の把握、阻害されている基本的ニーズと疾病との因果関係、対象の病状理解度・疾病の受容の程度、治療に対する補助的援助、生活習慣変更の援助、セルフケア充足への援助、苦痛緩和への援助、家族への援助、継続看護、医療・保健・福祉の連携

老年看護学

《目的》 老年期にある対象の特徴を学び、老化に応じた看護および健康障害をもつ対象とその家族への看護を実践する能力を養う。

	科目	単位数	時間数	科目目標	内容
老年看護学	老年看護学概論	1	30	○老年期の特徴・老年期にある対象の現状と老年看護にかかわる保健・医療・福祉について理解する。	老年期とは、老年期の発達課題、加齢に伴う身体・精神機能の変化、高齢社会とは、高齢者の生活、高齢者の性、高齢者虐待、老年保健の動向と対策、介護保険とは、地域高齢者のニーズと保健福祉サービス、高齢者と家族の関係性
	老年看護学援助論Ⅰ	1	30	○老年期にある対象の健康について学び、健やかに老年期を過ごすための援助方法を理解する。	老年看護の原理、高齢者のフィジカルアセスメント、高齢者によく見られる身体症状、日常生活のアセスメントと援助方法（食事・排泄・運動・休息・睡眠・清潔・入浴）、転倒予防
	老年看護学援助論Ⅱ	1	15	○健康を障害された高齢者とその家族に対する援助の方法を理解する。	検査・治療を受ける高齢者の看護、高齢者の疾病と看護（うつ・せん妄・認知症・脳神経疾患・循環器疾患・呼吸器疾患・運動器疾患）、終末期看護
	老年看護学援助論Ⅲ	1	30	○事例の展開をとおして老年期にある対象を理解し、老年看護に必要な知識と技術を統合する。	事例展開 （大腿骨頸部骨折により運動障害のある老年期にある対象の看護）
	老年看護学実習Ⅰ（Ⅰ-1）（Ⅰ-2）（Ⅰ-3）	2	90	○地域で生活する老年期にある対象の加齢に伴う個別的な特徴を理解できる。 ○地域で生活する老年期にある対象および家族の生活上、健康上の要求について理解できる。 ○地域で生活する対象の保健・医療・福祉の実際を理解できる。 ○社会資源を活用し、地域で生活する老年期にある対象および家族の生活上、健康上の要求について理解できる。 ○社会資源を活用し、地域で生活する対象の保健・医療・福祉の実際を理解できる。 ○施設で生活する老年期にある対象の加齢に伴う個別的な特徴を理解できる。 ○施設で生活する老年期にある対象の生活上、健康上の要求について理解できる。 ○施設で生活する対象の保健・医療・福祉の実際を理解できる。 ○対象にふさわしい接遇、態度を身につけることができる。 ○保健医療福祉チームの一員としてふさわしい態度を身につけることができる。 ○自己の課題を見出し、達成に向けて努力することができる。	加齢に伴う特徴の理解、老年の生活の理解、福祉施設でのサービス内容の理解、対象の健康問題、生活習慣、残存機能の理解および日常生活援助、レクリエーション、健康管理活動の参加、老年者とのコミュニケーション、老化の過程にある老年者の看護

教育課程

Ⅱ 教育内容

	科目	単位数	時間数	科目目標	内容
老年看護学	老年看護学 実習Ⅱ	2	90	<ul style="list-style-type: none"> ○老年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解できる。 ○老年期にある対象の健康障害の特徴について理解し、健康上の問題について総合的に判断することができる。 ○老年期にある対象と家族が健康な社会生活を送るために必要な基本的援助を実践できる。 ○継続看護の必要性和援助の実際について理解できる。 ○老年期にある対象に対して関心を深め、個人として尊重できる態度を身につけることができる。 ○医療・保健・福祉チームの一員としてふさわしい態度を身につけることができる。 ○自己の課題を見出し、達成に向けて努力することができる。 	<p>回復の過程をたどる老年の看護、慢性の過程をたどる老年の看護、終末期にある老年の看護、健康障害と老化を関連させて理解、健康上の問題抽出、日常生活援助の実施、苦痛の緩和、健康コントロールへの支援、生活維持、家族への援助、検査治療の援助、継続看護、QOLを高める援助</p>

小児看護学

《目的》将来を担う小児の特徴を理解し、健やかな成長発達への援助および健康障害をもつ小児とその家族への看護を実践する能力を養う。

	科目	単位数	時間数	科目目標	内容
小児看護学	小児看護学概論	1	30	○小児看護の概念、子ども各期の成長発達を学ぶ。 ○子どもの保健・医療・福祉における看護の役割を理解する。	子どもの成長・発達、 基本的生活習慣の発達と自立、栄養の特徴、 子どもにとっての家族とは、子どもの権利、 小児看護の役割、子どもの保健福祉、 不登校やいじめの増加
	小児看護学援助論Ⅰ	1	30	○健康を障害された子どもとその家族について理解する。 ○子どもの成長・発達および成長・発達段階に応じた援助の方法を理解する。	子どもの健康障害の特徴、 疾病の過程に応じた子どもの看護、 症状別の子どもの看護、 発達障害をもつ子どもの理解と看護
	小児看護学援助論Ⅱ	1	15	○小児看護における基礎的な援助の方法を理解する。	子どもとのコミュニケーションの方法、 子どもの安全を守る方法、 各検査・処置を受ける子どもの看護、 子どもの安全を守る方法、 子どもの発達に合わせたあそび
	小児看護学援助論Ⅲ	1	30	○健康障害をもつ子どもの特徴を踏まえた看護の展開プロセスを理解する。 ○気管支喘息で呼吸機能障害のある子どもの看護を理解する。	幼児期における小児気管支喘息に罹患した子どもへの援助を発達段階や疾患の理解を深めながら看護過程の展開を通して見出す
	小児看護学実習 (Ⅰ-1) (Ⅰ-2)	2	90	○健康な乳幼児の身体的・精神的・社会的な成長・発達が理解できる。 ○乳幼児のコミュニケーションの特徴が理解できる。 ○乳幼児の個別性が理解できる。 ○乳幼児の成長・発達に応じた日常生活の援助のあり方が理解できる。 ○対象に対し、ふさわしい接遇を身につける。 ○自己の課題を見出し、達成に向けて努力することができる。 ○健康障害をもつ子どもの成長・発達を対象をとおして理解することができる。 ○健康障害や入院が子どもの成長・発達および家族におよぼす影響が理解できる。 ○健康障害について理解し、健康回復にむけての基本的援助を実践できる。 ○小児看護における看護者の役割が理解できる。 ○子どもの安全を守るために必要な基本的援助を実践できる。 ○小児看護における継続看護について理解できる。 ○小児看護における保健・医療・福祉・教育の連携が理解できる。 ○対象に対し、ふさわしい接遇を身につける。 ○自己の課題を見出し、達成に向けて努力することができる。	健康な子どもの成長・発達の理解、 健康な子どもの社会性の発達の理解、 子ども同士の関係とそれを促進するための保育者の役割、 子どものコミュニケーションの特徴の理解、 成長・発達に影響する因子への考察、 日常生活習慣の観察 (食事・排泄・睡眠・清潔・衣服の着脱)、 日常生活習慣の自立と獲得にむけての援助、 社会性の獲得の援助を体験する、 遊びと成長・発達の関連の理解、 保育所の規則・行事・日課の理解、 安全を守る環境調整の理解、 健康障害をもつ子どもの成長・発達や日常生活習慣の獲得状況の理解、 受け持ちの子どもの疾患の理解、 処置・検査の目的や苦痛の理解、 各処置・検査を受ける子どもへの援助、 子どもとその家族へのコミュニケーションを実施、 対象の生育歴・家庭環境・キーパーソン・入院に伴う問題の理解、 発達段階にあわせた対象への学習と遊びを実施する、 対象をとりまく環境・食生活・排泄状況・睡眠状況・清潔・衣生活の理解、 日常生活援助の実践、 成長・発達を促すための個別的な働きかけ、 家族に対する援助、 安全を守るための物理的・人的環境の整備

教育課程

Ⅱ 教育内容

母性看護学

《目的》女性のライフサイクルと女性を取り巻く環境を理解し、母性各期にある対象を身体的だけでなく、精神的・社会的に統合された存在として認識し、健全なライフスタイルを送るための看護を实践する能力を養う。

	科目	単位数	時間数	科目目標	内容
母性看護学	母性看護学概論	1	30	<ul style="list-style-type: none"> ○母性看護の概念と意義について理解する。 ○母性看護の変遷およびその理念について理解する。 ○ライフステージに応じた母性各期の特徴と健康上の課題について理解する。 ○人間の性とセクシュアリティの発達を理解する。 ○リプロダクティブ・ヘルスの考え方について理解する。 ○ヘルスプロモーションと母性について理解する。 ○母性保健統計の動向と施策、母性保健活動について理解する。 ○母性看護における生命の尊厳や生命倫理について理解する。 	母性の概念(母性・父性・親性)、人間の性と生殖(性・生殖機能、セクシュアリティの分化と発達、ジェンダー)、母性の特性、母性看護の機能と役割、女性の健康と保健(リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、働く女性の健康と保護、性に関連する社会問題)、生殖医療における倫理、医療事故防止、母性保健の現況と動向、ライフステージ各期の健康課題と看護(成熟期・更年期～老年期の健全な家庭づくりへの看護、健康障害と看護)
	母性看護学援助論Ⅰ	1	30	<ul style="list-style-type: none"> ○妊婦・産婦・褥婦における生理的变化とその特性を理解し、必要な援助の方法を理解する。 ○妊娠・分娩・産褥期および新生児における、基本的な観察技術と援助技術を習得する。 ○新生児の生理的变化とその特性を理解し必要な援助の方法を理解する。 	妊娠期の看護 (妊娠の生理、妊婦の健康診査、妊婦の健康教育) 分娩期の看護 (分娩の生理、分娩第1期から第4期の看護) 産褥期の看護 (産褥の生理、復古促進の援助、母乳栄養確立の援助、親役割獲得・母子関係形成の援助)、 新生児の看護
	母性看護学援助論Ⅱ	1	15	<ul style="list-style-type: none"> ○妊娠・分娩・産褥期および胎児期に予期される異常の病態生理と治療について学び、健康の保持増進や正常からの逸脱を予防していくための基礎的な知識を身につける。 	異常妊娠 (ハイリスク妊娠の管理と保健指導、妊娠期の異常と治療) 異常分娩 (分娩期の異常と治療、異常分娩の看護) 異常産褥 (産褥期の異常と治療、異常産褥の看護)
	母性看護学援助論Ⅲ	1	30	<ul style="list-style-type: none"> ○母性看護の看護過程展開のプロセスを理解する。 ○妊娠・分娩・産褥各期にある対象と、胎児・新生児およびその家族を理解できる。 ○子どもを産み、育てる過程にある対象と新生児への援助を理解できる。 	母性看護における看護過程 (看護過程とは、事例提示) 事例展開 (アセスメント、計画立案、実施、評価・修正)
	母性看護学実習	2	90	<ul style="list-style-type: none"> ○周産期にある対象の特徴と正常な経過について理解できる。 ○周産期にある対象とその家族に対して必要な援助ができる。 ○周産期の看護を通しての母子関係の重要性を理解できる。 ○保健・医療・福祉チームにおける看護の役割を認識し、継続看護の必要性を理解できる。 ○生命の誕生をとおして、生命の尊厳、母性の尊重、自己の生きかたについて認識できる。 ○自己の課題を見出し、対象にふさわしい接遇態度を身につけることができる。 	妊娠期の看護 (妊娠経過の理解、胎児発育の理解、妊婦診察、保健指導) 分娩期の看護 (分娩経過の理解、胎児の観察、産婦の日常生活援助、産痛緩和、母子関係形成の援助、新生児の出生直後の看護) 産褥期の看護 (産褥期の観察、復古促進の援助、乳汁分泌促進の援助、母親役割獲得の援助) 新生児期の看護 (新生児の観察、保温の援助、感染予防、栄養の援助、事故防止) 異常時の対応

精神看護学

《目的》ライフサイクルにおける人間の心の健康を、成長・発達・社会適応の側面から捉え、心の健康を守るための看護と、精神に障がいをもつ対象と家族への看護を実践する能力を養う。

	科目	単位数	時間数	科目目標	内容
精神看護学	精神看護学概論	1	30	<ul style="list-style-type: none"> ○心を病む人と精神看護の特徴を理解する。 ○精神保健行政を精神保健福祉法について理解する。 ○精神に障がいをもつ対象とその家族に対する援助方法、精神障がい者の権利、社会参加の保障を理解する。 	心を病む人の特徴と家族の理解、生活の場と精神の健康問題の把握、精神看護の活動と精神保健看護・精神保健行政、精神医療と看護の歴史変遷・法律、精神障がい者の社会参加を促進する要件、社会復帰体系に基づく精神保健活動、
	精神看護学援助論Ⅰ	1	15	<ul style="list-style-type: none"> ○精神に障がいをもつ対象の疾病・症状を学び求められる援助の方法を理解する。 ○地域におけるリハビリテーションの実際と看護者の役割について理解する。 ○精神に障がいをもつ対象の看護の課題を理解し、今後の展望について考える。 	精神に障がいをもつ対象の基本的知識、主な精神疾患、精神に障がいをもつ対象の基本的知識、主要な精神症状、精神症状と状態像、薬物療法の問題、精神保健医療活動とリハビリテーション
	精神看護学援助論Ⅱ	1	30	<ul style="list-style-type: none"> ○精神に障がいをもつ対象の疾病・症状を学び求められる援助の方法を理解する。 ○地域におけるリハビリテーションの実際と看護者の役割について理解する。 ○精神に障がいをもつ対象の看護の課題を理解し、今後の展望について考える。 	精神保健医療福祉における看護の役割、主な精神疾患と看護、精神に障がいをもつ対象の基本的看護、主要な精神症状とその看護、精神症状と状態像の看護、薬物療法の問題と看護者の役割、精神保健福祉および看護活動とリハビリテーション
	精神看護学援助論Ⅲ	1	30	<ul style="list-style-type: none"> ○統合失調症慢性期の患者の特徴をふまえた看護の展開プロセスを理解する。 ○統合失調症により生活行動に障害をもつ対象の看護を理解する。 ○プロセスレコードをとおして看護者の役割を理解する。 	事例展開 62歳 女性 統合失調症 慢性期 意欲低下のある対象の看護 プロセスレコードの活用と実際
	精神看護学実習	2	90	<ul style="list-style-type: none"> ○精神に障がいをもつ対象とその家族を理解できる。 ○精神に障がいをもつ対象に対する治療の必要性と治療効果を高めるための基本的援助が実践できる。 ○精神に障がいをもつ対象の人間関係および日常生活を円滑に営むための基本的援助が実践できる。 ○精神科病棟に入院している対象の日常生活の場面をとおして看護者の役割を理解できる。 ○精神に障がいをもつ対象との人間関係から自己の考え方の特徴を理解できる。 ○精神保健福祉法による対象者の人権を考えた治療、看護のあり方を理解できる。 ○精神保健福祉活動や社会復帰に向けての連帯、地域社会で生活している対象の生活の場について理解できる。 ○保健・医療・福祉チームの一員としてふさわしい態度を身につけることができる。 	実習施設・精神科病院、精神に障がいをもつ患者の看護、コミュニケーションをとおして対人関係の構築、疾患・症状・全体像を理解するための情報収集、看護過程の展開(分析・関連図・問題点・計画)日常生活の援助の実際・服薬行動・病的体験への対応、リハビリテーション療法(レクレーション・活動療法)見学、精神科病棟の特性(環境・面会・通信・行動制限)精神保健福祉法による治療・看護(入院・隔離・拘束)精神保健福祉法による治療・看護(人権擁護他)社会復帰を促すソーシャルサポート・ディケア見学・コミュニケーション・援助をとおしてプロセスレコードの活用で自己理解・他者理解、個人情報の取り扱いと実習記録の管理、自己の健康管理

統合分野

目的:基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ・Ⅱで学んだ知識・技術を統合し、臨床で活用するための基礎的能力を養う。

在宅看護論

《目的》社会のニーズに対応し、地域で生活する在宅療養者とその家族を理解し、在宅看護の基礎となる知識・技術を習得する。

	科目	単位数	時間数	科目目標	内容
在宅看護論	在宅看護論 概論	1	30	○在宅療養者とその家族、社会資源や体制を学び、在宅看護の現状をふまえ、看護の果たす役割を理解する。	在宅看護の歴史、在宅看護の定義、在宅看護の特性、在宅看護の対象の理解、在宅看護の機能と役割、在宅ケアを支える制度と社会資源、ケアマネジメントと看護、緊急・災害時の看護
	在宅看護論 援助論Ⅰ	1	15	○在宅看護に必要な基本的な観察・訪問技術を理解する。	在宅ケアの特徴、在宅におけるフィジカルアセスメント、訪問技術
	在宅看護論 援助論Ⅱ	1	30	○在宅看護における療養者・家族の抱える問題を解決するための援助の方法を理解する。	在宅での日常生活・医療処置の援助、在宅療養者の症状・状態別、疾患別看護の実際、看護災害時の被災予防
	在宅看護論 援助論Ⅲ	1	30	○事例の展開をとおして在宅療養者を理解し、在宅看護に必要な知識と技術を統合する。	事例展開 脳出血で在宅療養が必要な対象の看護を理解する
	在宅看護論 実習	2	90	○在宅療養者とその家族を生活者として捉えることができる。 ○周囲の人々に与える影響について理解できる。 ○在宅療養者の健康問題に対して必要な援助が理解できる。 ○在宅療養のための継続看護の重要性や課題が理解できる。 ○在宅療養に必要な保健・医療・福祉の連携の必要性を理解できる。 ○保健・医療・福祉チームの一員としてふさわしい態度を身につけることができる。 ○自己の課題を見出し、対象にふさわしい接遇態度を身につけることができる。	訪問看護ステーション実習 (療養者宅への訪問、援助の見学・実施、医療処置の見学、他職種との連絡・報告・相談の実際の見学、合同カンファレンス見学)

看護の統合と実践

《目的》チーム医療および他職種との協働、看護としてのリーダーシップ・メンバーシップを理解し、看護マネジメントできる基礎的能力を身につける。
臨床実践に必要な知識と技術を習得する。

	科目	単位数	時間数	科目目標	内容
統合分野	看護の統合と実践Ⅰ	1	30	<ul style="list-style-type: none"> ○災害直後から支援できる看護の基礎的知識について理解する。 ○国際社会において、広い視野に基づき看護師として諸外国との協力を考えることができる。 	災害NCの概要、災害医療活動・災害看護活動、情報の伝達、災害対応、災害派遣医療チーム、国際貢献、国際的視野をもつ必要性、国際看護活動を推進する人や機関、国際看護活動の展開プロセス、国際看護活動の展開プロセス、異文化理解と国際看護活動の実際
	看護の統合と実践Ⅱ	1	30	<ul style="list-style-type: none"> ○看護実践においてマネジメントできる基礎的能力を養う。 ○医療安全の基礎的知識を習得する。 	医療チームの一員としてのマネジメント、業務遂行のためのマネジメント、看護師自身のマネジメント、医療安全対策の基本的考え方、危険の種類別に見た医療安全対策、災害・防災管理
	看護の統合と実践Ⅲ	1	15	<ul style="list-style-type: none"> ○既習の知識・技術を統合し、卒業時に求められる知識・技術・態度を習得し、対象の状態に応じた看護が実践できる能力を養う。 ○看護実践能力を評価し、自己の課題を明確にすることができる。 	OSCEとは、OSCEの具体的展開と評価方法、リフレクション、学習課題の明確化、看護技術の習得 (卒業時別達成度Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの項目演習) 学習課題に対する知識の統合、学習の成果と課題の明確化(OSCE評価)
	看護研究	1	30	<ul style="list-style-type: none"> ○研究の基本的知識・態度を習得し、看護を多角的視点から考察し、看護を追究する能力を養う。 	看護研究とは、NC研究のプロセスと実際、研究デザイン、NC研究における課題、ケーススタディのプロセス、ケーススタディの実際
	統合実習	2	90	<ul style="list-style-type: none"> ○複数対象への援助の優先順位の考え方と時間管理の必要性を理解できる。 ○看護チームのチームメンバーおよびチームリーダーの役割を理解することができる。 ○病棟管理・看護管理の実際について理解できる。 ○夜間実習の体験をとおし、夜間の患者の状況を知り、行われている看護について理解する。 ○自己の課題を見出し、達成に向けて努力することができる。 	複数受けもち患者への優先順位の決定、援助の計画立案・実施、チームメンバー業務の理解、チームリーダー業務の理解、機能別看護業務の理解、病棟師長業務の理解、地域連帯室・安全管理室業務の理解、夜間時の患者・看護についての理解、夜間時の管理体制・安全対策についての理解